

## 草の根・人間の安全保障無償資金協力案件(教育分野)署名式

2022年3月11日、有吉大使は、草の根・人間の安全保障無償資金協カスキームによる「フクアラン市ドクトル・エンリケ・マガニャ・メネンデス初等学校整備計画」について、被供与団体代表者との間で供与文書への署名を行いました。

ドクトル・エンリケ・マガニャ・メネンデス初等学校は建築から50年以上経過していますが、十分な修繕および改修が実施されていませんでした。どの教室にも窓ガラスがなく、外の雑音が入ったり教室内に砂埃が舞ったりする他、雨風が直接教室に吹き込む状態でした。また、雨天時には天井の破損により雨漏りが発生し、児童・生徒が授業に集中出来る環境ではありませんでした。さらに安全面でも、鉄骨のさび、壁のヒビ割れおよび床タイルの破損・隆起等が建物に多く見られ、子どもたちが転倒するなどして怪我をするリスクを日常的に抱えていた上、地震などの自然災害による建物倒壊の危険さもありました。

今回の案件では、このような劣悪な環境にあった10教室を改修(724㎡)することにより、安全で快適な学校環境整備を図り、同地区の基礎教育の質の向上に寄与します。本案件実施により、398名の児童・生徒及び教員13名が外部からの騒音や埃などを気にせず集中して、また安全で衛生的な環境下で学習することが可能となります。さらにアスベストが使用された建物を改修することを通じて、生徒及び教員の健康問題も解消されます。本案件にかかる支援総額は15万6,325米ドル(日本円にして約1,688万3,100円)です。

署名式では被供与団体代表のマルティネス校長やロドリゲス・フクアラン市市長から、日本政府と日本国民への謝意が表明されるとともに、きちんと案件を完了させたいとの決意が語られました。有吉大使は、本案件への供与を祝福した上で、竣工式で子どもたちの笑顔が見られることを楽しみにしていると述べました。

(写真は次ページ)



集合写真(前列左からロドリゲス市長、有吉大使、マルティネス校長)



記念撮影



署名



学校長からの記念品授与



市長からの記念品授与



教員からの記念品授与